

瑠璃



彼杵中学校
校長 川内康範

2学期のスタート

・おせらわれている行事ではなく、

自分で考えて取り組む行事」

・言葉で相手に正確に伝える練習を

始業式にあたり次のような話をしました。

私はこの夏休みに技術科の中山先生と一緒に、中学生が受けるようなプログラミング教育の研修を受けました。そこで体験したことを話します。私たちがした体験は、タブレットを使ってタイヤが2つ付いた車型のロボットに迷路脱出の命令を与える、というものです。ロボットには距離センサーや色の違いがわかるセンサーがついています。私たちは4人の班で「ああでもない、こうでもない」と言いながら、一つ一つの命令を作っていました。たとえば、目の前の壁との距離が3cmになったら止まる。止まったら左に90度回転する。回転したら前進させる、といった具合です。やっと完成してわくわくしながら走らせてみると、なんとゴール手前で突然停止してしまいました。後でチェックすると、最後のプログラムがタイヤを1回転しかさせないようになっていたのです。私たちが思ったようにロボットは動いてくれませんでした。きちんと伝えるのは難しいと改めて感じました。

考えてみると、私たちが毎日やっているコミュニケーションも思うように自分の思いが伝わっているかどうか、はなはだ疑問です。身近な家族でもきちんと伝わらず、「えっ?」と聞き返すことがよくあります。時には嫌な思いをしたり、けんかになったりすることもあるのではないのでしょうか。SNSで言いたいことがうまく伝わらず、トラブルになるという話もよく聞きます。プログラミングと同様に、言葉で正確に自分の考えを伝えることは実は難しいのだと改めて感じます。学校では、朝や帰りの短学活、毎時間の授業(各教科・道徳・学活)などの中で話し合ったり発表したりする機会がたくさんあります。中学生の皆さんには、これまで以上に言葉を考えて選んで使い、正確に伝えることを心がけてほしいと思います。

式ではここまでしか話しませんでした。もう一つ別の話です。先日、日本サッカー協会会長の田嶋幸三氏の講演を聞きました。田嶋さんが家族でドイツに住んでいたころの話です。田嶋さんの子どもたちはドイツでの生活に慣れると、考え方や感覚もドイツ風になり、日本とは違ってきたそうです。ある時、田嶋さんが子どもと電話で話している途中に、お母さんに電話を変わってほしいと思いい、「お母さんは?」と言うと、子どもは「お母さんはいるよ。」とだけ答えたそうです。子どもにちゃんと伝えるためには「お母さんと電話を変わって」と言わなければならなかったとおっしゃっていました。

単一民族の日本では、省略しても通じる言い方がたくさんあります。しかし、正確にコミュニケーション

ンするにはあいまいではなく正確な表現で伝えなければなりません。

最近、身近なところでも外国人の姿をよく見かけます。国際化の波は今後ますます押し寄せてくるでしょう。私たちは、これからの社会で生きていくには、論理的な思考ができるようになる必要があります。誰とでもコミュニケーションし正確に伝えることができるようにならなければなりません。中学校でしっかり身に付けておけば、大人になってどこに行っても通用すると思います。彼杵中の生徒は、落ち着いてわかりやすい話し方をする、と言われるようになります。



納涼花火大会で吹奏楽部が演奏を披露しました。
みなさん浴衣や甚平がよく似合っていましたよ。

すばらしいですね!
おめでとうございます。